

おばなざわ

南沢に咲く桜に
思いを巡らせて

目次

- 2 … 尾花沢市総合教育会議報告
- 4 … 地域おこし協力隊活動報告
- 5 … 春のオンライン体験ツアー「地域活性化起業人」着任
- 6 … トピックス
- 10 … おばなざわ日記
- 12 … みんなのページ・市長コラム
- 14 … お知らせ
- 16 … おばなざわ事典

令和3年
5月
No.836



おばなざわ事典

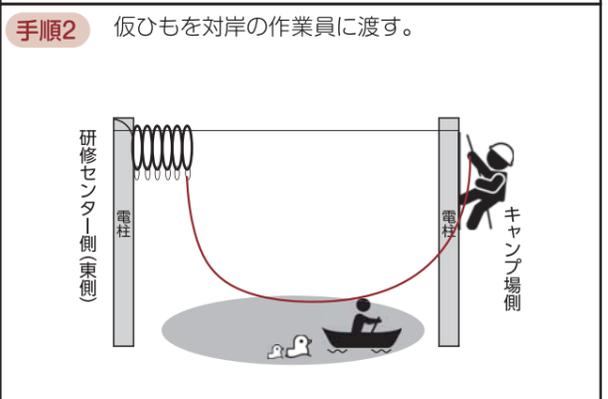
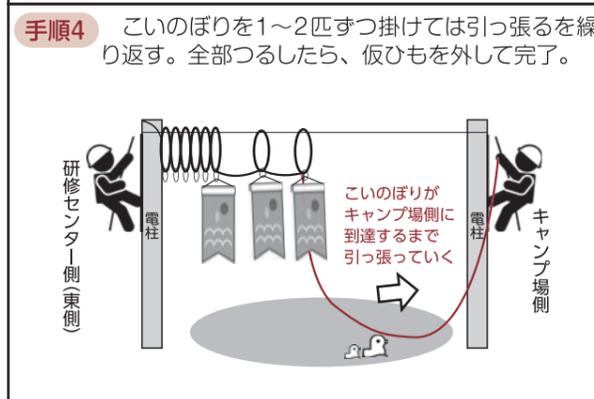
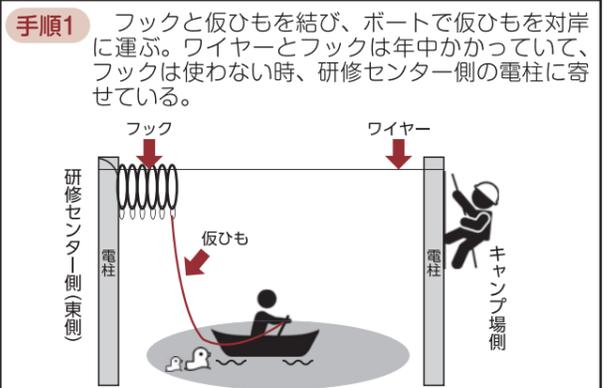
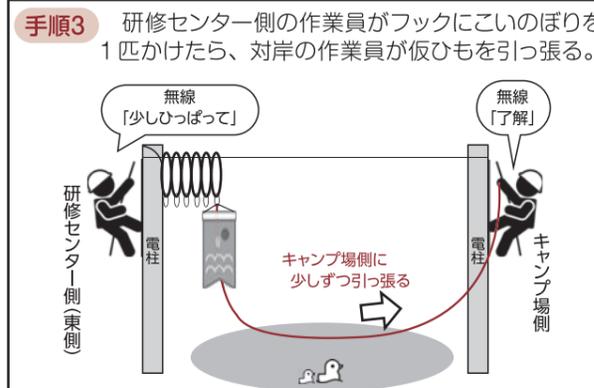
と 徳良湖のこいのぼり



▼掲揚期間…
4月第2週～5月中旬
始まり…
こいのぼりの再活用が
でき、観光スポットに
もなると他市で好評だ
ったため、昭和63年か
ら本市でも始めました。
こいのぼり供養…
古くなった物はブルー
シートに並べ、神主に
祈禱してもらってから、
役目を終えます。

こいのぼりの飾りつけを
しているのは、(有)尾花沢
電気工事さん。皆さんご
存知でしたか？

湖上はどうやってつるして
いるのか、説明します！
(有)尾花沢電気工事代表取締役、
阿相順也さんにお聞きしました。



市の人口と世帯

5月1日 現在		前月比	先月中の動き (届出件数)	
男	7,496人	(-8)	出生	3人
女	7,707人	(-18)	死亡	22人
計	15,203人	(-26)	転入	31人
世帯数	5,389戸	(+5)	転出	38人
			婚姻	1組

表紙

南沢に咲く桜に思いを巡らせて

道路脇の満開の桜並木に誘われるように、寺内からさらに山の奥へと車を走らせる。到着したのは24戸ほどの小さな集落。公民館が建つ敷地の石垣の上に、大きな桜の古木が花を咲かせていた。豪雪に耐え、南沢の人々と共に長い年月を過ごしてきた様子が、その木の姿に表れていた。周囲には水仙が植えられ、土手には福寿草が咲き始めている。住民が大切にしているこの土地で、移ろう季節の喜びを、桜の木も感じているような気がした。
(4月21日 南沢地区にて)

尾花沢市小中学校の
あり方に関する基本方針(案)を
決定しました

本市のこれからの子供たちにとって望ましい教育環境がどうあるべきかを市全体で考えるため、学校教育検討委員会からの提言や保護者へのアンケート調査、さらには各地区からのご意見を踏まえて、4月21日に開催された尾花沢市総合教育会議にて、「尾花沢市小中学校のあり方に関する基本方針(案)」を決定しました。
この基本方針(案)について報告します。

小中学校のあり方に関する基本方針(案)

- ①協働的な学びを重視する等、学習方法の変化に応じた教育活動の活性化を図る。
- ②出生数減少の推移を受けた学校の適正規模、教職員の適正配置をめざす。
- ③尾花沢市学校教育検討委員会の提言を尊重した方針とする。

1. これまでの検討経過

- 尾花沢市学校のあり方アンケート実施(H29.7.12~24)
市内の幼保小中全保護者(1,322名)が対象、回収率85.1%(回収数1,125名)
- 尾花沢市学校のあり方を語る会の開催(H29.10.24~11.27)
各小学校区(5地区)で幼保小中保護者および地区民が参加し開催
- 尾花沢市学校教育検討委員会の開催(H30.5.31~R1.12.18までの計7回開催)
委員:全幼保小中保護者代表、各地区代表区長、市議会代表、学識経験者(計25名)
※令和元年12月25日付けで尾花沢市学校教育検討委員会より提言書提出
- 学校教育検討委員会提言を受けての意見交換会(R2.11.9~24)
各小学校区(5地区)で開催し、幼保小中保護者および地区民が参加し意見交換

2. 基本方針の考え方のポイント

(1) 協働的な学びを重視する学習

探究型学習の推進等、学習者主体の学びを進めるには、相談できる仲間、自分の考えと違った考えを出し合える仲間の存在が大切であり、知識の習得に終わることなく、持っている知識・技能を最大限発揮し、活用しながら、課題解決に向けて試行錯誤する学習の場づくりを重視していきます。
※【「協働的な学び」とは】子供たち同士が教え合い、学び合い、高め合う学びで、自分と異なる考えに触れ、課題解決に向けた思考力を育成すること。

(2) 小中学校適正規模の考え方

- 小学校
一定規模の児童の中で、互いに学び、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力などを育み社会性や規範意識を身に付けることが重要です。全学年でのクラス替えや学習活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成するため、同学年に複数教員を配置できる1学年2学級以上(全学年で12学級以上)あることが望ましいと考えます。
- 中学校
高等学校や社会へのステップとして、より多くの人との関わりが重要です。また、教科担任制であることや、生徒一人一人の活躍する機会が確保でき、教員が生徒一人一人の把握をしっかりとできること、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図りやすいことなどから、9学級以上であることが望ましいと考えます。
※【参考】国が標準としている学校規模(小学校、中学校ともに12学級以上、18学級以下)

(3) 教職員の適正配置

教職員の適正配置により人数が確保されることで、グループ別や習熟度別指導など多様な教育活動が可能となります。また、学年や教科で先生が複数配置されることで、教職員同士の相談や協力、研究が可能となり、指導体制の充実や指導技術の向上が図られます。中学校の部活動では顧問の複数配置が可能となることから、より充実した学校運営が行える環境が整います。

3. 将来の小中学校のあり方(基本方針(案)に基づく学校の将来像)

(1) 市内小学校の統合について

令和9年度の開校をめざし、新たな尾花沢小学校を建設し、市内小学校を1校に統合します。統合については、各地区の了承を得ながら進めていきます。

※建設場所については、子供たちにとって望ましい教育環境および各地域からのアクセスや徒歩通学の安全面などを考慮し、また将来的なまちづくりの視点も含め市民の声を聞きながら、具体的な場所を検討し決定していきます。

(2) 市内中学校の統合について

令和5年度に、福原中学校を尾花沢中学校に統合します。統合については、福原地区の了承を得ながら進めていきます。

※校舎については、当面、現在の尾花沢中学校の校舎を使用します。将来的には、市の財政状況を踏まえ、統合小学校に隣接する形で新たな中学校を整備する方針です。

(3) 市内小中学校の形態について

学校の形態については、小学校と中学校を別々に設置した小中連携型とします。経営方針は、教育課程の要所において9年間を見通して小中学校で定めていきます。

※小中学校が併設される時期に学校教育の今後の動向を踏まえながら、将来的な学校形態については再度検討します。

(4) 学校給食について

統合小学校での給食提供については、中学校も含めた全体の給食提供のあり方について検討を進め、その中で自校給食の実施について検討していきます。

(5) 学校プールについて

統合した小学校に、25m規模のプールを整備します。また、低学年から幼児まで使える補助プールの併設を検討するとともに、夏季休業中の市民プールとしての活用についても検討していきます。

(6) 特色ある教育について

学校統合等を考える時、新たな学校における特色ある教育を進めていきます。

- 地域と共に歩む学校を創る。(ふるさと愛の育成、地元企業との連携など)
- ICT機器を積極的に活用し、情報活用能力を育む教育を展開する。
- 英語力の向上に力を入れ、豊かな国際感覚を育む教育を展開する。

4. 今後の取組みについて

このたび決定した基本方針(案)をもとに、さらに皆様のご意見をいただきながら検討し、学校のあり方についての最終的な方針をまとめていきます。

小学校区単位での説明会の開催

市内5小学校区ごとに説明会を開催し、地域住民に対し、市の方針(案)を説明します。

小学校区単位で「検討委員会」を設置・開催

小学校区ごとに検討委員会を設置し、市の方針(案)について協議していきます。
(委員:幼保小中保護者代表、区長代表、学校代表等で構成)
※協議結果を教育委員会へ報告

総合教育会議の開催

検討委員会からの報告を受けて、本市の小中学校のあり方について、最終的な方針を決定。

◆こども教育課 Tel (22) 1111【内線331】 ※市公式ホームページで詳しい内容を公開しています。

尾花沢市地域おこし協力隊 活動報告会



3月22日、本市で活動している2人の地域おこし協力隊員の報告会がオンラインで行われ、1年間の活動の振り返りとこれからの抱負を発表しました。

佐藤隊員は令和3年9月末、久保田隊員は令和3年11月末で3年間の任期が満了となります。総まとめとなる令和3年度の活動の足がかりとその後の定住計画を視野に入れつつ、現在取り組んでいる活動内容や抱負について発表された内容をまとめました。



佐藤 直美(さとう なおみ)

平成30年10月、東京都調布市から転入。

農業に興味がありスイカが好きなおこしから尾花沢に移住。農業を中心に、農産物の6次産業化、地域イベントのサポート、山での活動を行ってきました。

今後は、自然環境に配慮した持続可能な農業を構築し、農業に関わりながら、本市への定住を目指します。

農業と地域の活動

- ・ **農業** スイカの有機栽培、無農薬・脱穀以外は機械を使わない米作りで2俵収穫
- ・ **山** 原木キノコの栽培、メーブルサップ採取、山道整備、わらび苗作り
- ・ **6次産業化** 農家民宿・農業体験できる宿の予定地探し、山菜・農産物の加工品作成、食品衛生責任者資格取得、研修会に参加
- ・ **地域活動** 矢越地区の雪まつり企画・運営に参加、そばオーナーイベントへの参加、はげこバツグ作り開催。



久保田 文(くぼた あや)

平成30年12月、宮城県仙台市から転入。

食に関する活動を行っており、令和元年度は市内有志とトツキ市の開催を手掛けました。

令和2年度には、徳良湖オートキャンプ場管理棟内に「グースカフェ」をオープン。現在もカフェ運営に携わり、尾花沢産食材にこだわったメニューを提供し、徳良湖周辺の新たな憩いの場になっています。

グースカフェの活動

- ・ 徳良湖での若者の居場所づくりを目的に、令和2年5月より計画を始動。廃校になった小学校から運び出した懐かしの机や椅子等を再利用し、オートキャンプ場管理棟の一角をリフォーム。7月にカフェをオープン。
- ・ 本市ではなかなか味わえない本格的なコーヒーや、尾花沢産食材を使った軽食や季節のスイーツを提供しています。
- ・ 現在、週末以外は一人で切り盛りしているため、提供に時間がかかってしまうのが課題。退任後の持続可能な経営体制を模索中。



おばなざわ春のオンライン移住体験ツアー

尾花沢すいかと暮らしの紹介

新型コロナウイルスの影響で県外への行き来が難しい中、自宅にいながら本市の暮らしを知ってもらおうと、オンライン移住体験ツアーを実施しました。

4月25日に開催された今回のツアーでは、尾花沢すいかの苗の定植作業やグラススタジオ旭での吹きガラス体験、先輩移住者のチェロ演奏などを企画。それぞれの場所でする移住者の方々が体験している様子を中継し、インターネットを通して見ている参加者に、リアルタイムで現場の様子を伝え、疑似体験してもらいました。

また、交流会のコーナーでは、参加者たちから「スイカの苗を作る際の台木は地域によって違うのか」「鳥獣被害は？」など様々な質問や感想が出されました。

この企画は、今後も定期的に開催していく予定です。四季それぞれの尾花沢を身近に感じてもらうことで、実際に尾花沢を訪れ、移住・定住につながるよう継続していきます。



▲徳良湖オートキャンプ場管理棟の本部では、パソコンの操作担当や司会者がスタンバイ。



▲徳良湖周辺のスイカ畑から中継。苗を植える現場での作業を細かに伝えられました。



▲元地域おこし協力隊の加藤皓平さん(埼玉県出身)は尾花沢での体験談を語り、日頃練習しているチェロを演奏。



▲グラススタジオ旭では吹きガラス体験を中継。オンライン参加者も体験気分を味わいました。



「Ijuするなら尾花沢市」Facebookで「Kの日常」公開中。下記のQRコードからアクセスしてみてください!



花笠踊りの動画を見て「笠回し」特訓中です!



よろしくお願ひします!

「地域活性化起業人」にかみろ たかひろ 神尾高宏さんが着任

総務省の地域活性化起業人制度により日本航空㈱から派遣された、神尾高宏さん(福島県伊達市出身)が本市の「地域活性化起業人」に着任しました。
4月12日から商工観光課に配属され、市内観光業の整備や地域資源の発掘・提案など、観光分野の業務に従事します。任期は3年間です。
神尾さんは、「豊かな地域資源に恵まれた尾花沢市の魅力を発信し、国内外から多くの人流を生み出すことに取り組んでいきたいです」と意気込みを語りました。

トピックス
TOPICS 2

表彰・感謝状

各分野で永年の功労があった方々に、表彰状、感謝状が贈られました。



▲4月20日、尾花沢市連合区長会総会の席上で市長より表彰を受けた奥田氏（写真左側）

令和3年度市功労表彰
奥田 文雄氏（新町5）
奥田文雄氏は、平成11年4月から平成17年3月までと、平成19年4月から令和3年3月までの合わせて20年もの永きに渡り新町第5地区区長を務められ、令和3年3月31日をもって退任となりました。この間奥田氏は、区長として地域住民の声に耳を傾け、地域行政の運営や地区の発展に尽力されました。これまでのご功績に敬意を表します。

令和3年度市功労表彰
奥田 文雄氏（新町5）

- 〔10年以上表彰〕**
- 奥田 文雄氏（新町5・20年）
 - 星川 昭雄氏（牛房野・10年）
 - 菅野 駿氏（安久戸・10年）
 - 倉金 昭義氏（正殿1・10年）
 - 森山 實氏（押切・10年）
- 〔5年以上表彰〕**
- 間宮 良一氏（上町3・6年）
 - 笹原 登氏（上町4・6年）
 - 塩原 成一氏（横町2・6年）
 - 奥田 文雄氏（新町5・20年）
 - 杉本 芳美氏（籠気・5年）
 - 菅原 一美氏（田沢・8年）
 - 星川 昭雄氏（牛房野・10年）
 - 庄司 薫氏（野黒沢1・7年）
 - 荻野 太文氏（毒沢・6年）
 - 菅野 駿氏（安久戸・10年）
 - 加藤 一夫氏（丹生3・9年）
 - 倉金 昭義氏（正殿1・10年）
 - 森山 實氏（押切・10年）
 - 菅藤 卓雄氏（岩谷沢・6年）
 - 伊藤 一雄氏（九日町・8年）
 - 五十嵐仲一氏（細野・6年）



▲4月27日に市役所を訪れ市長より表彰状の伝達を受けた方々（写真右側2人目より順に本間孝雄氏、今野利輝雄氏、館野忠行氏）。

令和2年度山形県統計功労者表彰
尾花沢市より4名受賞
2月4日に山形テルサにて「令和2年度山形県統計功労者表彰式」が行われました。農林業センサスや構造統計調査など、長年の統計調査による功績が認められ、本市より4名の統計調査員が大臣表彰並びに感謝状を受賞されました。

〔農林水産大臣表彰〕

- 尾崎 清悦氏（鶴巻田）
- 本間 孝雄氏（鶴子1）

〔経済産業大臣表彰〕

- 今野利輝雄氏（荻袋3）
- 館野 忠行氏（丹生2）

令和2年度山形県統計功労者表彰
尾花沢市より4名受賞

トピックス
TOPICS 1

令和3年度の区長さんを紹介します

今年度は区長改選の年ということもあり、42名の新区長が誕生しました。区長の皆さんには、地域と市の元気づくりにご協力いただきます。



（尾花沢地区）

- 中町 鈴木 束
- ☆上町第1 土屋 雄一
- 上町第2 鈴木 徹
- 若葉町 小埜 政美
- ☆上町第3 間宮 広志
- ☆上町第4 早坂 覚
- 上町第5 柴田 文夫
- ◎○禁町第1 鈴木 勲
- 禁町第2 笠原 征男
- ☆禁町第3 菅野 懋
- 横町第1 鈴木 征司
- ☆横町第2 田中 幸雄
- 北町 和田 暁
- ☆新町第1 大崎 儀治
- ☆新町第2 佐々木俊美
- ☆新町第3 伊藤 次直
- 新町東 佐藤 好政
- 新町第4 三浦 勝美
- ☆新町第5 大類 茂雄
- 荒楯 笹原 光政
- 二藤袋第1 大山 榮一
- 二藤袋第2 細矢 昭雄
- ☆籠気 齊藤 強志
- 横内 加藤 三雄
- 五十沢 石塚 清
- ☆田沢 大類 幸喜
- ☆牛房野 星川 敬雄

（福原地区）

- ☆和合 西尾 正廣
- ◎○荻袋第1 加藤 静雄
- 荻袋第2 矢作清次郎
- 荻袋第3 今野利輝雄
- ☆荻袋開拓 平山 芳春
- ☆寺内第1 筧 益夫
- ☆寺内第2 溝越 久雄
- ☆寺内第3 落合 博信
- ◎○西原第1 東海林勝見
- 西原第2 溝越 清治
- 南沢 阿部 勤
- ☆野黒沢第1 本間 明成
- 野黒沢第2 大内 秀明
- 芦沢第1 大類 正法
- 芦沢第2 矢作 幸平
- 芦沢駅前 沼澤 和一
- 名木沢第1 佐藤 茂樹
- 名木沢第2 国分 新治
- 名木沢第3 山寺 信秋
- 上の原 庄司 恒一
- ☆大海平 庄司 久志
- ☆西野々 笹原 政信
- ☆毒沢 阿部佐登美
- ☆安久戸 堀江 金藏
- ☆丹生第1 早坂哲太郎

（宮沢地区）

- ◎○丹生第2 本間長三郎
- ☆丹生第3 加藤 晃一
- ☆正殿第1 井上 清彦
- 正殿第2 高橋 守悦
- 正殿第3 井上 和夫
- ☆上ノ宿 押切 喜和
- 行沢 石山 洋幸
- 中島 吉田 清一
- ☆高橋 森山 一
- ☆押切 押切 定美
- ☆関谷 大貫 喜彦
- 矢越 菅原 正光
- 市野々 佐藤 良彦
- 市野々 山口 忠博
- ☆岩谷沢 渡部 誠一
- ☆北郷 菅野 和吉
- ☆坂本 菅野 敏
- ◎○☆鶴巻田 武田 佳久
- 母袋 落合 正男
- 下原田 石山富士夫
- 東原 秋場 肇
- 玉野原 岸 幸喜
- 上原田 折原 秀雄
- 下柳 生田 健一
- ☆栗生 遠藤 順一
- ☆寺町 宮嶋 健一
- 銀山 脇本 英治

（玉野地区）

（常盤地区）

- ◎○☆古殿 五十嵐清治
 - ◎○☆九日町 松本 純一
 - ☆袖原 佐々木 登
 - ☆三日町 三宅 勝美
 - ☆荒町 古瀬 広司
 - ☆畑沢 菅戸不二男
 - ☆細野 五十嵐淑美
 - 六沢第1 梶川 辰雄
 - ◎○☆六沢第2 押切 政昭
 - 鶴子第1 佐藤 松一
 - 鶴子第2 伊藤 哲生
 - ☆鶴子第3 伊藤 精春
 - ☆鶴子第4 永沢 秀一
- ◎地区会長 ○地区副会長
○代表区長 ☆新区長
※敬称略



▲令和3年度の区長92名へ市長より委嘱状が交付されました。